

特 集

悪性腫瘍治療の最先端

門 田 康 正 (徳島大学第二外科)

中 川 利 一 (徳島県医師会)

はじめに

近代社会の特徴として時間経過が極めて早いことが挙げられる。過去においては10年間の出来事が2~3年の間に起こっている。医学の進歩も例外ではなく、急速である。基礎医学の進歩が次々と臨床に取り入れられ、最先端病院の最新医療があつと言う間に一般医療施設に普及する。

癌の克服は現代医学の緊急に解決されなければならない課題の一つであり、徳島大学でも多くの教室が新しい治療法の開発、導入に挑んでいる。徳島大

学で行われている、あるいは計画されている癌に対する最先端医療も瞬く間に広く普及するであろうが、それまでにそれらの内容を身近なものとして理解していただきたいと考えて本セッションが計画された。

残念ながら時間の関係で今回は大学内で行われつつある最先端治療のごく一部が紹介されるにとどまるが、他の教室でも種々の計画がなされているのでこれを機会に皆様が関心を持って下さることを期待する。

-
- モノクローナル抗体による多発性骨髄腫の免疫療法……………小 阪 昌 明他
(徳島大学医学部第一内科学教室)
- エフェクター細胞を用いた肺癌の免疫療法……………楊 河 宏 章
(徳島大学医学部第三内科学教室)
- 造血細胞移植術と中四国臍帯血バンクの現況……………河 野 嘉 文他
(徳島大学医学部小児科学教室)
- 肺癌に対する Interventional Bronchology ……………近 藤 和 也他
(徳島大学医学部第二外科学教室)
- IVR を用いた肝癌に対する局所治療 ……………柴 田 啓 志他
(徳島大学医学部第二内科学教室)
-